

「カリフォルニアの山火事と人的要因」

(協同組合通信/日和見論弾)

15.11.26

米国カリフォルニア州で、複数の山火事が同時発生。同時多発と言う点で、忌まわしい2年前のテロをつい思い出した。1日現在で、東京都の1.4倍程度の地域が焼失し、2,300億円を超える大規模災害となり、カリフォルニア州の最悪記録を更新。

この時期、西海岸のフロリダ地方は乾燥し澄んだ蒼空が観光の目玉。

70年代のフォーク歌手達がメロディアスな調べで称えた、カリフォルニアの青い空。テレビや各紙の報道に詳しいが、山火事の直接原因と間接要因は大別して3つ。火災の発生現場と拡大の状況及び原因は多少異なる。

放火であり、既に犯人の似顔絵が配布され捜索が始まっている。映画の西部劇でお馴染みのシーンが、現代のロスやサンディエゴの都市にも生き残っている。

行政の怠慢による人災。同州では、以前からククイムシの被害が多く、森林で広がっていた。30~50%とという、森林地帯の半分近くの信じ難い割合で、樹木の立ち枯れがあり放置されていたという地元・カ大のウォルター教授(火災生態学)の指摘があった。

狩猟に夢中なあまり自分の位置が分らず、藪(ブッシュ)で道に迷ったハンターが、助けを求めた照明弾の発泡によるもの。現代の銃器好きアメリカの事故・災害の典型的な例。自国の正義を主張するが、戦前の古くからの盟友の大半と国連から本音を見抜かれ、そっぽを向かれている。独善的外交で孤立化深まるイラクの現状の手詰まりに酷似。

大火事を煽り、拡大させている要因に気象条件の2つがある事が見逃せない。

通称「サンタアナの風」といわれる乾燥した南カリフォルニア特有の季節風。

発生現場の東部に広がる内陸部の砂漠地方から吹き込む風。

次に、火災旋風(通称:火事場風)。我国でも関東大震災の時に発生したことが知られている。この厄介な風は火災現場の猛烈な熱風が、回転・上昇しつつ周囲の冷気に触れることで、小型の竜巻のような現象が発生し、消火活動を阻み手の施し様がない。現代の最新消防科学技術をもってしても降水に頼るしかない。どうぞ、被災者に天の恵みを。アーメン!

(気象情報システム株式会社 高津 敏)